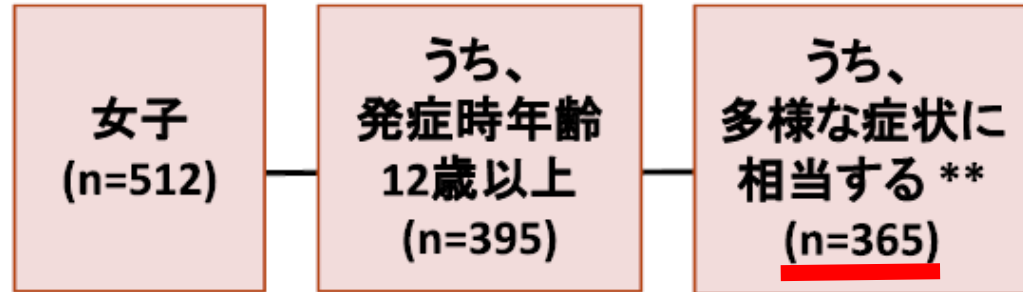
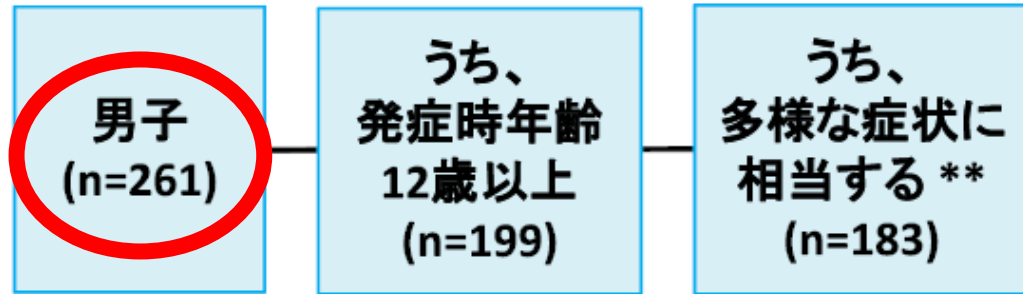


疫学調査(祖父江班) 結論

- ① HPVワクチン接種歴のない者においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を呈する者が、一定数存在した。
- ② 本調査によって、HPVワクチン接種と接種後に生じた症状との因果関係は言及できない。

二次調査報告症例*の概要 (N=773)

?



**「多様な症状」は、取り扱い②による。

* 性別・生年月日が不明の者は除外。
(不適格率・重複率の算出もできないため)

重複症例については、最終受診日が
最も遅い調査票の情報を採用。

結局、この調査は
接種歴なし110人と接種後症状あり103人
を比較しただけの貧弱な調査

(A) HPVワクチン接種歴なし (n=110)

(B) HPVワクチン接種歴あり
+ 接種前に発症 (n=2)

(C) HPVワクチン接種歴あり
+ 接種後に発症 (n=103)

(D) HPVワクチン接種歴あり
+ 接種と発症の
前後関係不明 (n=13)

(E) HPVワクチン接種歴不明 (n=137)

全国疫学調査概要

青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」について、頻度と特性を調査

(厚生労働省研究班「難病の患者数と臨床疫学像把握のための全国疫学調査マニュアル」の手法を使用、一部改変)

➤ 一次調査：全国の病院を対象に、2015年7月1日～12月31日(過去6ヵ月間)における患者の受診有無について、報告依頼(患者ありの場合は性・年齢別患者数も)

● 調査対象診療科(18,302診療科)

- ✓ 10診療科 小児科、神経内科、ペインクリニック科、産婦人科、整形外科、内科(消化器疾患担当)、内科(リウマチ性疾患担当)、総合診療科、脳神経外科、精神科・心療内科
大学病院及び200床以上の病院の診療科→全数、200床未満の病院の診療科→半数抽出
- ✓ 特別階層:HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関83施設88診療科(2016年1月時点)→全数

● 調査対象症例基準(以下の①～④すべてを満たす)

- ① 年齢: 12～18歳(2015年7月1日～12月31日受診時点の満年齢)
- ② 以下の症状が少なくとも1つ以上ある
(疼痛および感覚(光・音・におい)の障害、運動障害、自律神経症状、認知機能の障害)
- ③ ②の症状が、3ヵ月以上 持続している
- ④ ②及び③のため、通学・就労に影響がある

男子も対象

➤ 二次調査：多様な症状の臨床疫学像について報告依頼

- 一次調査で「患者あり」と回答した診療科(508診療科)に、個人票送付
- 臨床疫学特性の情報収集(含:HPVワクチン接種歴)

➡ 一次調査と
二次調査をあわせて

多様な症状があり、ワクチン接種歴のない患者数を推計

HPVワクチン接種者・未接種者数の推計

別紙

生まれ年度	2,010 H22		2,011 H23		2,012 H24		2,013 H25		2,014 H26		2,015 H27		累積接種者数 (女子)	未接種者数 (男子)	未接種者数 (女子)	国勢調査による 基準人口 (男子)	国勢調査による 基準人口 (女子)	接種率 (女子)
	17歳	0	18歳		19歳		20歳		21歳		22歳							
H5	17歳	0	18歳		19歳		20歳		21歳		22歳		0	606,800	566,800	606,800	566,800	0.0%
H6	16歳	178,852	17歳	71,307	18歳		19歳		20歳		21歳		250,159	612,900	342,242	612,900	592,400	42.2%
H7	15歳	64,387	16歳	252,362	17歳	2,928	18歳		19歳		20歳		319,677	628,200	269,624	628,200	589,300	54.2%
H8	14歳	70,362	15歳	356,690	16歳	22,539	17歳		18歳		19歳		449,590	571,100	104,910	571,100	554,500	81.1%
H9	13歳	60,149	14歳	348,607	15歳	45,916	16歳	2,861	17歳		18歳		457,532	583,100	105,868	583,100	563,400	81.2%
H10	12歳	4,364	13歳	363,190	14歳	61,855	15歳	4,780	16歳	136	17歳		434,325	609,000	142,375	609,000	576,700	75.3%
H11	11歳	0	12歳	193,635	13歳	222,814	14歳	8,518	15歳	443	16歳	67	425,476	595,300	148,324	595,300	573,800	74.2%
H12			11歳	3,418	12歳	190,636	13歳	50,552	14歳	979	15歳	220	245,805	610,100	326,595	610,100	572,400	42.9%
H13					11歳	3,373	12歳	29,440	13歳	1,324	14歳	482	34,619	592,000	529,181	592,000	563,800	6.1%
H14							11歳	2,505	12歳	879	13歳	642	4,026	558,000	547,674	558,000	551,700	0.7%
H15									11歳	118	12歳	422	540	556,400	538,560	556,400	539,100	0.1%
H16											11歳	55	55	553,700	509,145	553,700	509,200	0.0%

19~21歳女子 101万9426人

男子 410万3900人

調査対象

自治体による全員調査

子宮頸がんワクチン接種後の体調の変化に関する状況調査

※予防接種法の定期接種は、地方自治体が接種を義務付けられた自治事務（保護者は努力義務）

- 神奈川県鎌倉市、茅ヶ崎市、大和市、秦野市
- 愛知県碧南市、
- 熊本県合志市、玉名市、
- 北海道美唄市
- 山梨県身延町 など

Q.接種後、いつもと違う体調の変化があった

鎌倉市45.6%、茅ヶ崎市38.7%、大和市45.0%、秦野市35.1%

Q.現在も症状が続いている

鎌倉市約0.6%（11人/調査票回収1795人）、秦野市約2.3%（49人/回収2102人）

茅ヶ崎市約1.0%（23人/回収2382人）、大和市約0.7%（15人/回収2294人）

被接種者約340万人の
全員調査・全面救済が
必要！

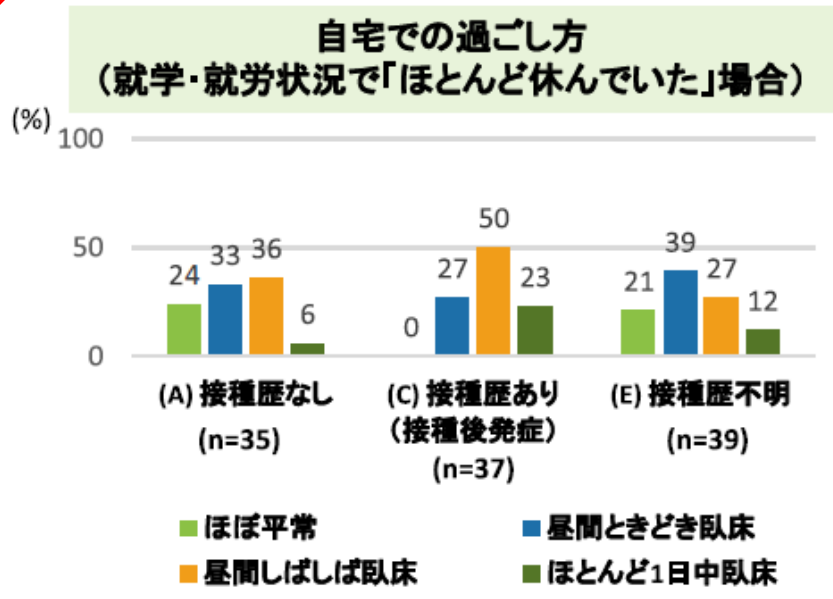
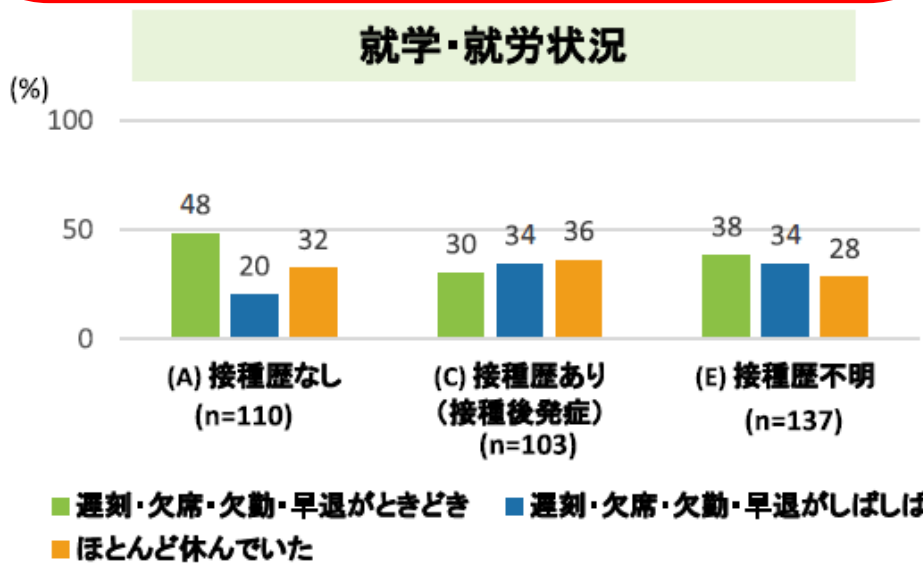
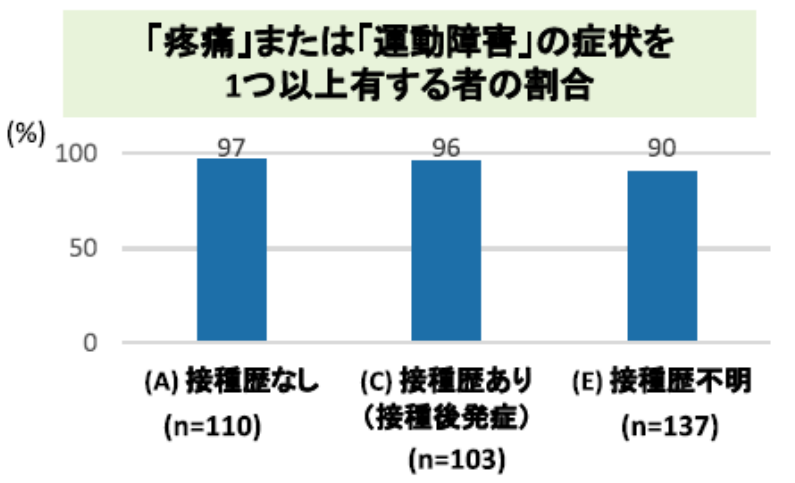
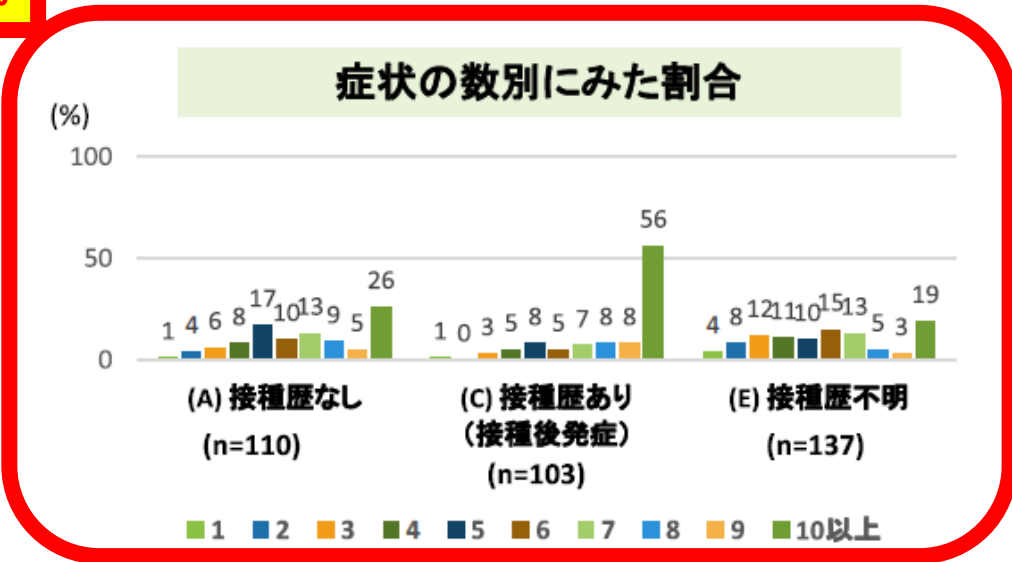


全国の被接種者約340万人にあてはめれば、
少なく見積もっても(0.6%)2万人余りに症状が継続していることになる

【10以上の症状】
接種歴なし26%
接種歴あり56%

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）

症状の全体的な傾向と、就学・就労状況

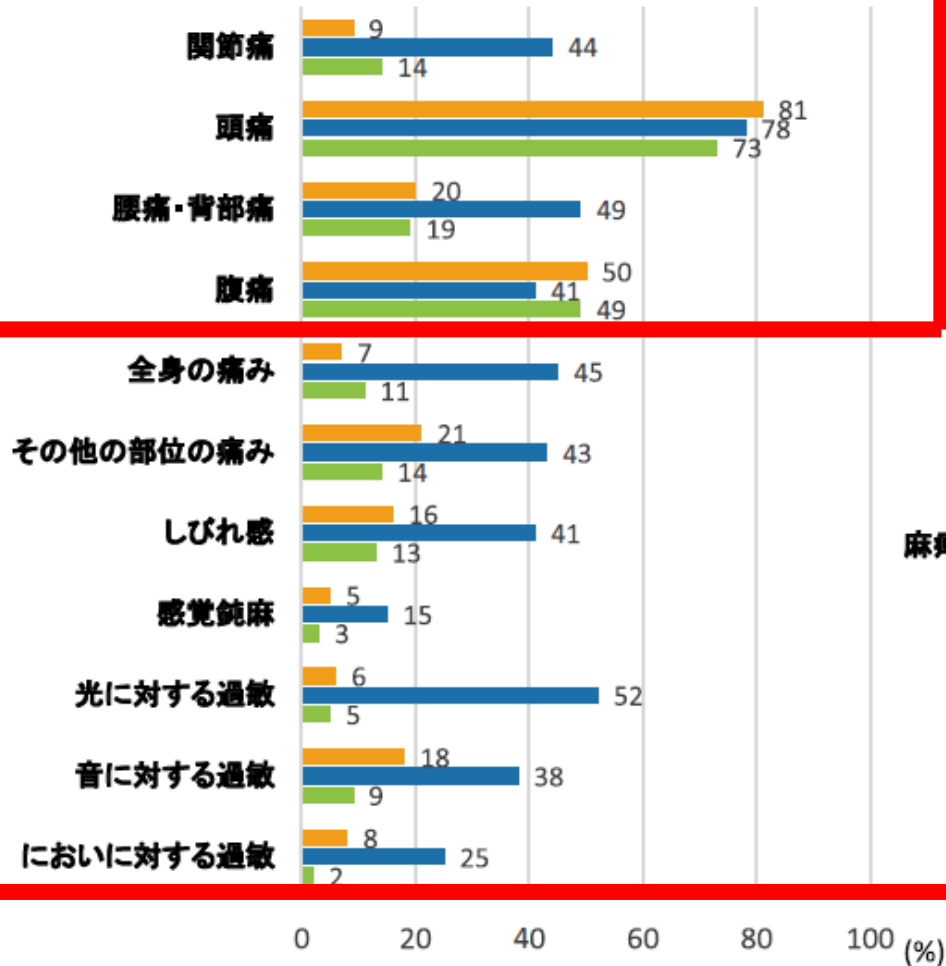


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

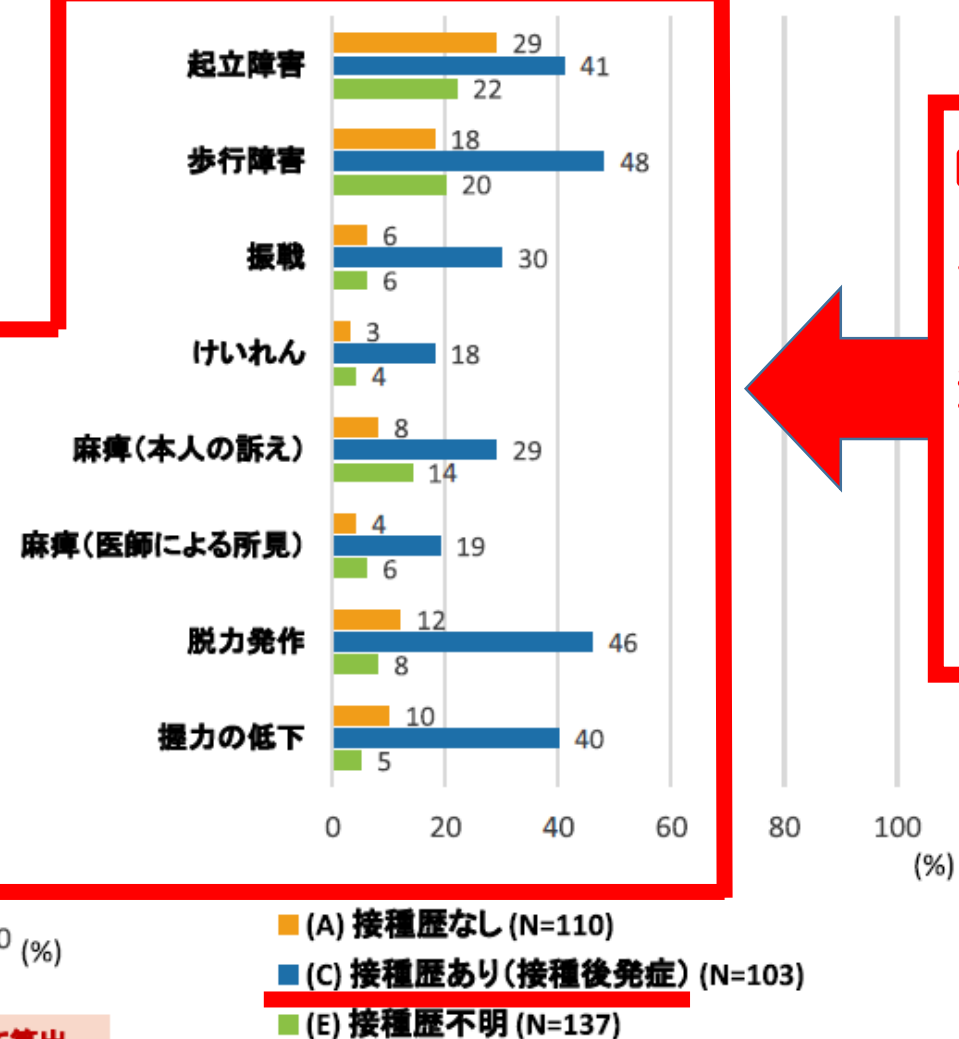
二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）

個別症状の割合 (1)

疼痛および感覚(光・音・におい)の障害



運動障害



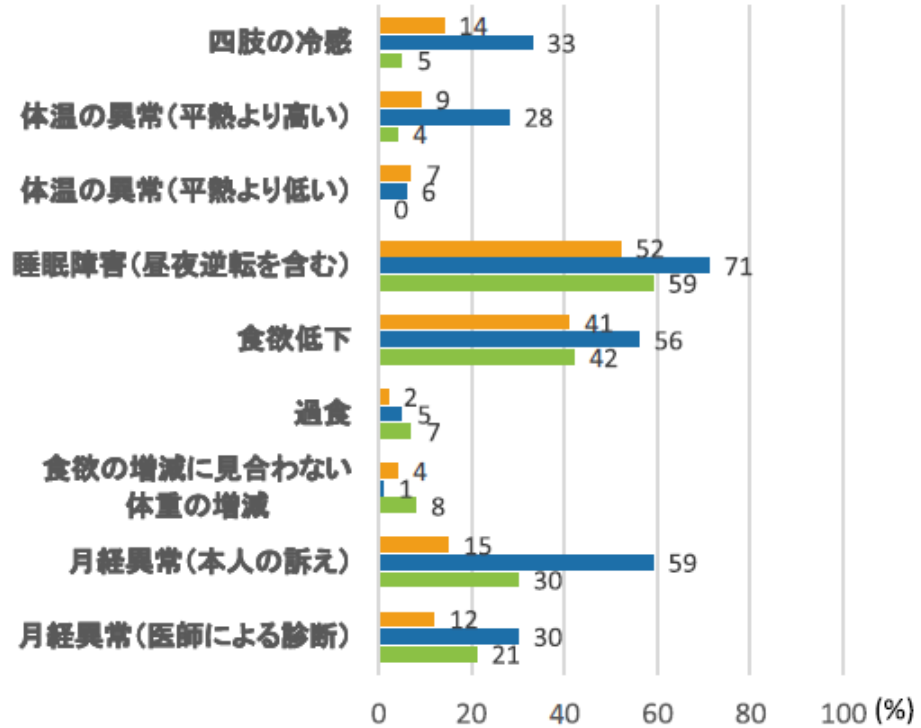
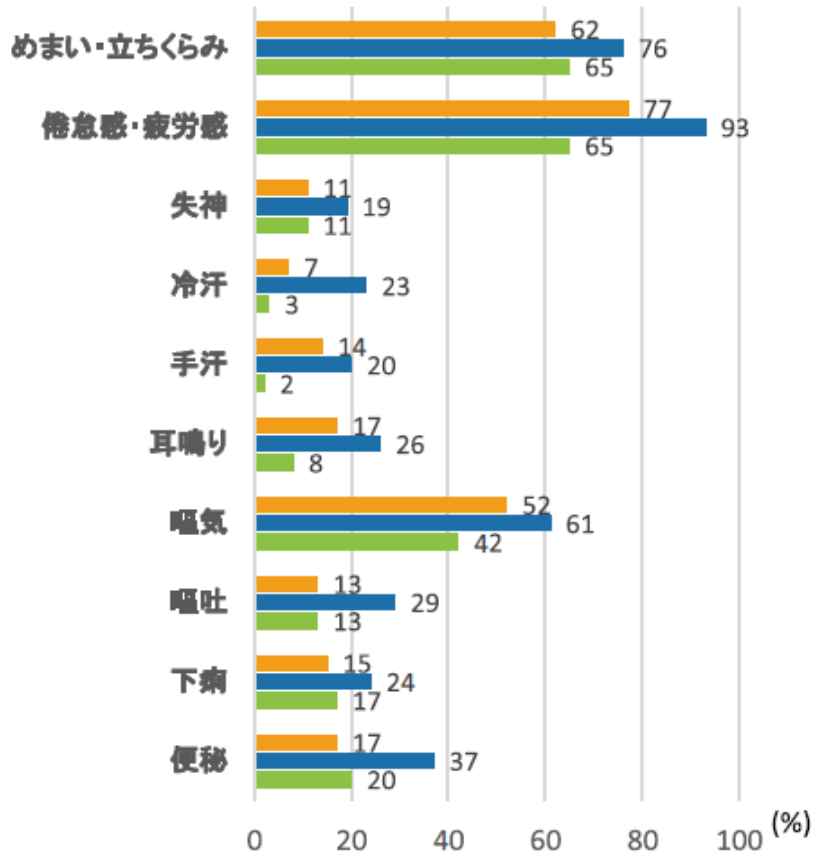
接種歴ありのほじが
明らかに多い

グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）

個別症状の割合 (2)

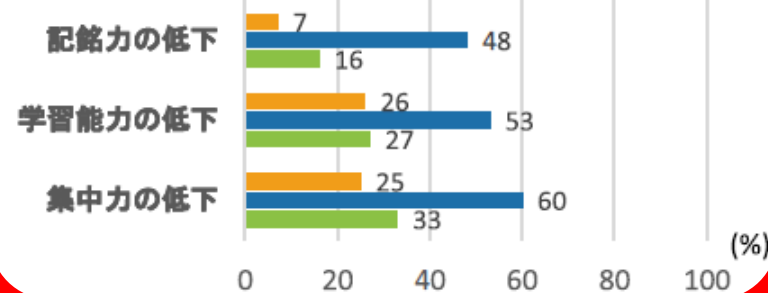
自律神経症状など



- (A) 接種歴なし (N=110)
- (C) 接種歴あり(接種後発症) (N=103)
- (E) 接種歴不明 (N=137)

グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

認知機能の障害



接種歴ありのほじが
明らかに多い